

# がんばります！東北酒蔵

山形県新酒歓評会 山形県酒造組合



## 復興へ！全国の先陣切ってチャリティーイベント

「東北の酒蔵はひとつ」 結束する酒造業界。義援金の呼びかけも

山形県酒造組合（和田多聞会長）は、東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方の酒蔵を支援するチャリティーイベント「がんばります！東北酒蔵／山形県新酒歓評会」を4月21日の午後、東京池袋のホテルメトロポリタンで開催。公開き酒会&パーティーにセミナー、そして義援金の募集などをまじえて、復興に向かって結束する東北酒造業界の姿を強力にアピールしました。全国に先駆けて実施された支援イベントの会場からレポート。

第2部「歓評会パーティー」の様



セミナー(上)で現況報告する福島県・鈴木酒造店の鈴木大介氏 →



← 義援金も次々に

来場者から寄せられた応援メッセージ →



第1部「公開き酒会」の様



## ●「力の残っているところが頑張らないでどうする」と開催を決断

今回のイベントは、東日本大震災の発生を受けて、恒例の首都圏向けイベント「山形県新酒歓評会」（山形県新酒鑑評会出品酒と全国各地の大吟醸を味わう会）の企画を急遽変更して開催したもの。

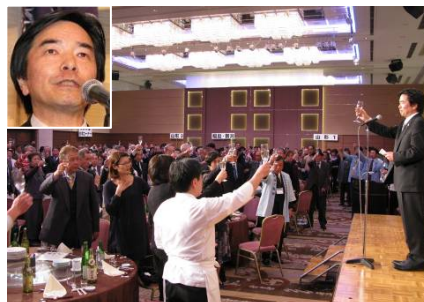
和田会長のお話では、「震災後、世間の自粛ムードが強まる中、我々もこのイベントを開催すべきか否かずっと悩んだが、『力の残っているところが頑張らないでどうする。東北の酒蔵の復興は、まず我々が支援していかなければ』という思いで開催を決断した。また、被災した蔵から『ぜひやってくれ』と逆に後押しされたことも力になった」といいます。



和田会長

## ●● 公開さき酒会の参加費全額を被災 3 県に寄付

会には、山形県内の 40 蔵に加えて、被害の大きかった福島、宮城、岩手 3 県の蔵を含む 100 蔵が全国各地から結集。第 1 部「公開さき酒会」(14:00~17:00/参加費 2000 円、300 名限定)、第 2 部「歓評会パーティ」(19:00~20:45/参加費 7000 円、300 名限定)の 2 部構成で、酒蔵復興への支援を呼びかけました。このうち、第 2 部のパーティでは、和田会長の挨拶に続き、山形県東京事務所の青柳所長の発声で来場者一同声高らかに「がんばりましょ

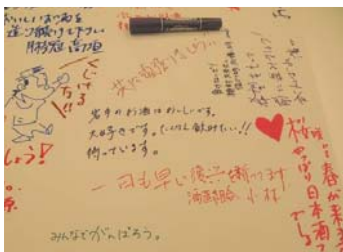


がんばろう！

う」と唱和して乾杯。会場では、義援金の受付コーナーに多勢の人が集って協力する姿が見られるなど、支援イベントにふさわしい熱気あふれる風景が繰り広げられました。

当日の公開さき酒会参加費（1 人 2000 円）全額と会場で募った義援金 92 万円は、イベント終了後福島、宮城、岩手 3 県の酒造組合を通じて被災各蔵に届けられましたが、山形県組合で

はこのほかにも、全国の特約百貨店を中心に販売している県のオリジナルブランド「純米大吟醸・山形讃香」(3150 円)の売上から、5 月以降 1 本当たり 200 円を義援金として 3 県に贈ることを決定しています。



さまざまな応援の言葉



三千元以上の寄付で大吟醸酒 2 本進呈

## ■ 応援を励みに前を向いて歩く(福島・鈴木大介氏)

第 2 部前の時間を利用して開かれたセミナー&シンポジウム「イタリアンと日本酒」(17:00~18:30)では、約 100 人の参加者が、料理評論家の山本益博氏ら 5 人のパネラーの話を聞きながら、鶴岡市にあるイタリアンレストランのオーナーシェフ奥田政行氏(パネラーの 1 人)の特製料理と山形地酒を楽しみました。

途中、津波による蔵の流失と原発事故による緊急避難という甚大な被害を受けた鈴木酒造店(福島県浪江町)の鈴木大介専務が現況を報告。「風評被害は深刻だが、皆さんの応援を励みに前を向いて歩き始めている。今ほど仲間の大切さを身に沁みて感じたことはない」と述べ、復興への強い決意を示しました。



↑パーティー会場で来場者と語る鈴木氏

